カトリック高松教区報

２０１８年５月６日（第１８４号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉
神さまの慈悲の生きた印でありなさい。あなたがたの面差しに浮かぶ慈愛、まなざしに湛えられる慈愛、ほほえみに漂う慈愛、あなたがたの心からなる、あいさつに込められた慈愛

『社会と共に歩む教会を目指して―協力宣教』

諏訪榮治郎司教が二〇一八年度司教書簡を発表

『社会と共に歩む教会をめざして―協力宣教』と題し諏訪榮治郎司教は3月5日付で二〇一八年度高松教区司教書簡を発表した。この中で司教は、近隣小教区が交わり強められ共に働く『協力宣教』の推進を、新しい時代への教区ビジョンとして強く信徒に訴えている。

諏訪榮治郎司教

次なるステップへ

書簡は４項目に分けられ、最初に『福音マーケットの次なるステップへ向けて』として、まずこれまでの福音宣教への教会の取り組みの経緯が述べられる。

第１回のＮＩＣＥから二〇一二年の『信仰年』まで様々な課題に対応してきた。その中で『充実した喜びの信仰年を経験した反面、福音と現実社会の繋がりをどう見出すのか分からないという課題に到達。その結果、社会が必要としているニーズと教会が持つ豊かさとの関連を探り福音宣教に繋げる姿勢を探る福音マーケットが実施された』と述べる。

教会の豊かさ発見

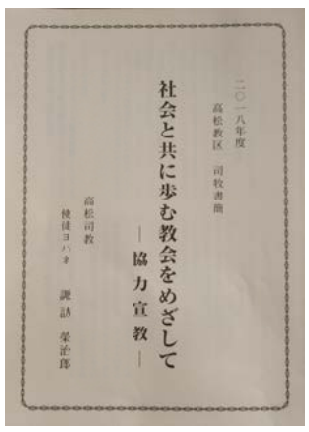
昨年7月の『女性の会』を手始めに司祭・助祭集会、地区ブロック、青年会などで『福音マーケット』の分かち合いが行われ、教会の持つ豊かさ、素晴しさが発見されたと司教は評価する。

『協力宣教』を教区ビジョンに

宣教へすべての信徒が共働

一方、『社会のニード』は青年にとっては自由、余裕（時間）、仲間、給与などがあり、高齢者にとっては家庭問題、人間関係、病気、介護など様々な側面が浮き彫りになった。

社会に生きる教会としてどのように豊かさを提供できるのかが問われている。


二〇一八年度
高松教区　司牧書簡
社会と共に歩む教会をめざして
―協力宣教―
高松司教
使徒ヨハネ　諏訪榮治郎

教会とは人と人が出会う『集い・ひろば』であり、私たち現代人が互いに支えあい、人を大切に思い、いたわりあう『交わりの場』としての教会へ進むことが次なるステップであるとする。

インターネット活用

『福音マーケット』からの気づきの言葉として『自分の信仰に誇りを持とう』「神と人とをつなぐ私はパイプ役」などがあげられた後、地域への福音宣教は『何をする』という思いよりも基本は日々新たにされる『自己の福音化・霊性の滋養』を大切にすることにあると司教は指摘する。

また教会の豊かさを人々に伝える方法としてインターネットの活用は無くてはならないものだとする。

そして『人々のニードに共感し素早く応える愛の情報発信は、まさに社会と福音を繋ぐ道具である。高松教区本部事務局を通し情報を提供いただき、皆様からのメッセージ、平和、人権、分かち合い、喜び、苦しみ、お知らせ、写真など教区ホームページが〝福音の喜びを分かち合うひろば〟となれるよう心から願っている』と司教は述べ教区ホームアドレスを紹介している。

教区献金への感謝

第２項目で『教区財政の見込みで、司教は信徒の協力に感謝を述べている。

今後の課題は18年度で大阪管区支援と教区献金が打ち切られ、会計システムの改善の必要性に迫られている。

現在司祭給与分担金を拠出している小教区は５分の1というのが現状。年間の司祭人件費は３０００万円に対し拠出された額は１０００万円に過ぎず、不足の２０００万円は幼稚園などからのチャプレン収入（３００万円）、教区献金、修道会からの寄付金（２００万円）に頼っているのが現状。司祭人件費は教区全体で支えていくものとして、今後経済問題評議会や『教区の将来を考える会』で方策を立てることになる。

高松教区を考える会

３項目目は『高松教区の将来を考える会』について。

２０１７年３月に発足した『考える会』は〈養成と福音マーケット部門〉〈財務と小教区編成部門〉に分かれて定期的な会合を続けている。

〈養成と福音マーケット部門〉ここでは福音マーケットの分かち合いから出てきた『福音の豊かさ』をどう社会に繋げていくかの課題に取り組んでいる。

前提として私たちの霊性が問われており「養成は霊性を育み、よき教会組織として繋る』と司教は述べる。

その取り組みの中で『社会の中に福音の種の芽生えがある。その人々とどう連帯していくか』『自己の福音化が宣教の基礎』などの方向性が出された。

〈財務と小教区編成部門〉昨年度の書簡で触れた司祭の高齢化、司祭召命の減少、財政の安定化を考えて、教会のユニット化（近隣する小教区の協力態勢）などが検討され、教会統合、司祭の配置が策定されている。

「福音マーケット」のエクササイズに取り組む女性の会員

新しい財源も模索

そして安定した財政確保へ小教区の納付金や献金のみでは限度があるため、新たな方策として土地利用なども検討せねばならない状況になっている。

これら経済問題への信徒の理解と協力を司教は呼びかける。

新ビジョンを提案

最後の第４項目で『高松教区の宣教ビジョン』について。

まず歴史からの考察として、キリシタンの大迫害時代を経て教会は司祭不在の中で２５０年間もの間、信徒の自主的な共同体（コンフラリア）によって継続されてきた。

明治に入り禁教令の高札は撤去され、再び信徒たちによる宣教活動が始められた。

１８６９年に第一バチカン公会議が開かれ『教皇を中心とする聖職者の指導の下で信仰生活を営む』ことが確認され、主任司祭主導型の教会として歩みが始まった。

その結果、日本も『受動的信徒』が多数を占める教会が主流となった。

そして１９６２年に教会の方向を大きく変える第二バチカン公会議が開かれた。会議では『福音宣教』が全面的に打ち出された。

『教会とは何か』と自らを問い、教会を『交わりと証する存在』『神の民』と捉え、「すべてのキリスト者は真に平等でそれぞれ固有の立場と任務に応じてキリストの体の建設に協働する』（新教会法典）と宣言された。だから信徒、修道者、司祭の『協力』は福音宣教の本来の姿といえる。

また小教区同士のユニット化も始まる中、『教区の再生と一致』という高松教区ビジョンをさらに進化させ、福音宣教に向けて『協力宣教』を新たな『教区宣教ビジョンとすることをここに提案する』と司教は宣言する。

最後に司教は深刻な現代社会の問題に取り組むためにも「すべてのキリスト者が福音宣教に向けて協力し、奉仕し合い、活かし合うことが教会の本来の姿です。（地区ブロック小教区チームなどの）宣教司牧評議会は大切な福音宣教の場です。神のみ旨を識別する場であり、養成の場であり、信仰のチャレンジ（挑戦）の場でもあるのです』と述べ、宣教司牧評議会がキリストの愛が働いてくださる場となれるよう霊性を大切にするよう訴え、『共に歩んでまいりましょう。皆様のご理解とご協力を心からお願いします』と書簡は結ばれる。

はばたき

高山神父さま、司祭叙階おめでとうございます。二人の助祭も認定され、教区にとって喜ばしいことが続いています。

三月に教皇さまは全教会の典礼暦に「聖なるおとめマリア教会の母」記念日を聖霊降臨後の月曜日と定められました。

十字架上でイエスは弟子にマリアを母として委ね、弟子達をマリアに子どもとして委ねました（ヨハネ１９・２７）。

イエスの死と復活、昇天を体験したマリアは「イエス」の時を目撃して生きた方として、教会共同体の女性たちと心を合わせて祈ります。当時の男性社会の中にあって教会の発足が聖霊降臨を通して行われます。その発足にマリアは参画します。

男性を励まし、助けて教会の本来あるべき姿を男性たちに示唆していきます。

神のみことばを聴き、それを生きる幸いな方、みことばは必ず実現すると信じた方、誰よりも先にキリストを信じ、誰よりも深くキリストを愛し、誰よりもキリストにかけたマリアは教会の中で特別な意味をもって、私たちに委ねられ、「教会の母」として教会そのものがマリアに委ねられたのです。

今日もマリアは、私たちを内なる神秘とのさらなる出会いへと導き、また世にイエスをもたらす者として旅することへと私たちを誘っています。

私たちも社会と共に歩む教会をめざして、福音マーケットの次なるステップへ向けて司教様と共に旅を続けて参りましょう。

アシジのフランシスコ高山神父
叙階おめでとうございます

３月21日、高松教区司教座聖堂桜町教会において、アシジのフランシスコ高山徹（あきら）神父の叙階式が行われました。諏訪司教司式による厳粛な叙階式ミサには、教区内外から４５０人を超える参列者が集いました。

ミサ後には、四国カトリック会館において祝賀パーティーが行われ、多くの参加者で盛り上がりました。

訓話

司祭服の着衣

奉献文

受階者の約束

訓話

パンとブドー酒の授与

諸聖人の連願

按手

奉献文

司祭叙階の祈り

諏訪司教挨拶

聖香油の塗油

歓迎の言葉

新司祭挨拶

栄唱

御両親を祝福

受階者の約束

歓迎の抱擁

霊的花束贈呈

叙階式後、司祭団・御両親・侍者と

新司祭挨拶

花束贈呈

祝賀会にて 喜びの顔・顔・顔

司祭叙階の恵みを頂いて

新司祭　髙山　徹

お蔭様で3月21日、司祭叙階の恵みを頂きました。沢山のお祈り、様々な準備、当日のご参列等、頂いた全てに感謝申し上げます。本当にありがとうございました！

昨年の助祭叙階がヨセフ神父様の司祭叙階との〝ダブル叙階〟であったのに対し、今回は単独叙階でありました。それ故の違いは、正直なところ、私にとって色々な面でございました。そのなかで四国内の皆様、特に地元高松の皆様が色々なご準備と、励まし、また遠方の友人も数えきれないエールを下さり、何とか当日を迎えることが出来ました。

当日は、少しお天気が悪い状況でしたが、皆様の祈りが通じまして次第に雨もやみました。全参列者の聖堂内での参列が一時あやぶまれ、各地からお越しのお客様も心配しましたが、立見席もありながら多くの方に聖堂内で与って頂くことができました。その空間は、言葉に言い尽くせぬ雰囲気でありました。四国内の信徒の方は勿論、今まで私と色々な時期に関わって下さった方々が参列下さったからです。中学の担任の先生、大学の先生、元職場の事務長さん、青春時代の友達、故郷である三重の教会の神父さん、信者さん、九州や東京の司牧実習先の皆さん、神学校の関係者等・・・。

祝賀会でも、全く同じ雰囲気でした。何より、ずっと見守る両親と叔母の姿がありました。

土台無理と知りつつ、皆様と握手（抱擁？）でご挨拶したい気持ちでした。式後のご挨拶でも申し上げましたが、泥だらけになるような失敗をすることのある私が何度も立ち上がることが出来たのは、こうした出会いと支えのお蔭なのです。いつも、転ばぬ先の杖ではなく、一旦は自分で考えて行動する機会を頂きながら、必ず助けて頂いて参りました。これからの司祭生活はこれまでと異なり、色んな所で責務が生じて参ります。変わらず弱い自分の姿もあります。それでも、神様から今まで無償で頂いたとんでもなく大きな恵みに感謝し、また信頼して参りたいと思います。

初ミサは、参列下さった方には申し訳ないくらい、ガチガチに緊張しておりました。自分がキリストの名において聖別の言葉を述べる不思議も恐れ多く感じておりますが、回を重ねるごとにその喜びも同時にかみしめております。「神父さん！」と呼ばれるのにも、少しずつ慣れながら。外国語ミサの司式も喜んで捧げようと思っております。これからも、何卒宜しくお願い申し上げます！

追伸　後輩を大募集中です！

東日本大震災復興7年現地活動報告会（TSC）

2018年6月10日（日）10:00～15:30 桜町司教座聖堂

主催
高松サポートセンター（TSC）
谷口広海 助祭
（070-5515-6810）
後援 大阪教会管区プロジェクト
＊当日の献金は、大阪教会管区へ

第１部 10:00 ミサ
諏訪榮治郎司教叙階7周年
感謝と復興祈願
（子供と共に捧げるミサ）

第２部　11:15
被災地現地活動報告
（1）カリタスジャパン
大船渡ベース長　菅原圭一氏
（2）カリタスジャパン
南三陸ベース長　千葉道生氏

昼　食　12:30～13:15
各自お弁当持参ください。

第３部　13:20～15:20
チャリティーコンサート
（鎮魂　復興祈願　）

募集要項
・コーラスグループを募集
（教会・修道会・一般から）
・意向に沿った曲目2曲
（10分以内）
・参加申込期日：5月25日まで
・申込先：桜町教会
（FAX/087－831－6629）
窓口：中越恵美

必要事項
・グループ名　・曲目　・責任者
・連絡先・　備考を記載
最後に参加者一同で「花は咲く」
（岩井俊二）を歌います。

教区スケジュール

5月
3日（木）憲法記念日　聖フィリポ　聖ヤコブ使徒
4日（金）みどりの日
5日（土）こどもの日
6日（日）復活節第６主日　世界広報の日
13日（日）主の昇天　復活節第7週
14日（月）聖マチア使徒　西日本地区司祭交流会in下関
19日（土）田中英吉司教追悼ミサ11:00 宣教司牧評議会役員会13：00
20日（日）聖霊降臨の主日　田中英吉司教命日
26日（土）聖フィリポ・ネリ司祭
27日（日）三位一体の主日（年間第8週）
31日（木）聖母の訪問
6月
3日（日）キリストの聖体
8日（金）イエスのみ心
9日（土）聖母のみ心
10日（日）年間第10主日　諏訪司教叙階記念ミサ、東北大船渡・三陸ベース活動報告会＆チャリティーコンサート（10:00～15:20）
11日（月）聖バルナバ使徒
16日（土）13：30教区の将来を考える会
17日（日）年間第11主日
19日（火）広島・高松教区司祭・助祭黙想会in大分（～23日）
24日（日）洗礼者聖ヨハネの誕生（年間第12週）聖ペトロ使徒座献金
29日（金）聖ペトロと聖パウロ使徒

信仰の喜び

洗礼のめぐみ深く・・・

昨年12月25日、昨夜の雨もこの日を祝福するように晴れ渡り日輪がさんさんと輝く主の降誕の日。

栄光の恵みと愛のあふれる記念する日に洗礼と堅信・聖体の秘跡を授かり、洗礼名使徒ヤコブを授与され非常な喜びと光栄で全てのめぐり合わせと兄弟の皆様に感謝します。

初めての聖体拝領頂き感激感謝しております。

私の人生は無宗教で宇宙の太陽を心の支えにして生きてまいりました。

平成22年9月に妻が天国に召され、宗教法人真言宗（高野山）にお世話になり墓を大阪市摂津市に建立致し真言宗を崇拝いたしておりました。

老後は道後という事で大阪から松山市に転居しました。

しばらくすると人生に何か分からないが忘れ物をしてきたような感覚になりました。

ある日、神の導きにより道後教会を訪れ、朝の第二三主日の日曜日ミサに参加致しました。

福音で『人は自分の力に過信することなく神の胸に心を向け、他人への思いやりと愛を持っておう神父さんの説教を聞き心が熱く燃える気持ちになり今までにない心に充実感と他人への愛を感じました。

今は『受洗までの74年2018日を自分勝手に歩んできた人生を強く反省し、悔い改めてこれからは神の教えに従って教会と共に新しい考えで人生を歩むことを望んで生きたい』と思います。

今後は神の教えに従い真の聖霊に照らされて豊かな実を授かるように洗礼の恵みを深く悟り信仰に生きることができるように『信じないものでなく信じることができるよう』になりたいと思います。

教会におかれては信徒の減少や高齢化対策の一環に何人でもいつでも教会の門を地域の人々に開放して頂きひとりでも多くの人々がキリスト者になれますように希望しお祈りいたします。

使徒ヤコブ　松村健三
（道後教会）

高松教区は「福音マーケット」を通じ、教会の宝ともいうべき『福音の豊かさ』への気付きからくる、自らの信仰の喜びを社会に繋げていくという課題に取り組んでいます。

前号から掲載しています本コーナーへの皆様の投稿をお待ちしています。

編集部

これまでの教区司牧に感謝

聖香油ミサで金・銀祝を祝う

前列左から２人目：ロビンソン師、右端：村上師、

3月28日、桜町司教座聖堂で行われた聖香油のミサに四国4県の修道会、宣教会、教区司祭たちが集まった。

式の中で「司祭職の模範である主イエスと一致し、自らを捧げ、教会のために自由に引き受けた聖なる任務を果たしますか」などの、司教の問いかけに「はい」と答え、叙階の日の誓いを新たにする約束の更新を行った。

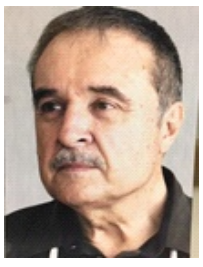
式の最後に、司祭叙階50周年と25年を迎えた司祭のお祝い式を行い、式後、場所を司教館に移してお祝い会を催した。

◇金祝◇
アルベルト・サイズ師

1969年6月、スペイン国マドリド市、聖ペトロ修道院において司祭叙階。聖ドミニコ修道会司祭。スペイン出身。19

72年来日。新居浜市愛光幼稚園副園長、上智大学神学科、松山市　愛光学園教諭、東京　聖ドミニコ寮寮長、ロザリオ学園　若葉幼稚園副園長・園長、ロザリオ学園、道後聖母幼稚園園長、今治教会主任、道後教会主任、八幡浜教会担当、ロザリオ学園　八幡浜聖母幼稚園園長、松山市　学校法人愛光学園理事等を歴任。教区小教区で長きにわたって司牧に当たる。

◇金祝◇
ノボトニー・ジェローム師



1964年9月15日アメリカより来日。日本語学習後、上智大学で3年学ぶ。1968年4月4日叙階。高知、江ノ口教会主任、聖母学園、高知大学教授他、学生のアメリカン・フットボール・クラブコーチ、空手顧問・審判、日本空手協会会長、英語活動ディレクターを務める。1983年日本プロ■ライフ運動を創立。受胎の瞬間から、寿命で自然死するまでの■命を守る■目標に掲げ、中絶や安楽死で命が軽視されている日本全国で、平和教育を通じ、この運動に従事。

◇銀祝◇
栃尾泰英師

1953年、三重県熊野市生。1977年4月9日東京豊島教会で受洗。1987年10月、ローマ・グレゴリアン大学入学。1992年6月、同大学卒業。同年10月26日、ラテラノ大聖堂にて助祭叙階。1993年7月4日、高松教区司祭叙階、叙階後司教館付司祭、江ノ口教会、桜町教会／桜町聖母幼稚園副園長、園長歴任後、新居浜教会。2009年鹿児島教区へ派遣、現在に至る。

編集後記

巷では入学式や入社式等で新年度のスタートが切られ、気合いが入った出発を終えた頃合。

高松教区では昨年に続き若い力となる司祭の誕生に新たな希望を感じています。

その中で、東日本大震災被災地の人びとにとっては年月の経過と共に現地以外の人々から震災の記憶が忘れ去られるのではないかとの切実な恐れを感じられているようです。高松教区では6月に、見える形での支援を計画中です。乞うご協力

（J）

〈教区外異動〉

▼村上康助師（サレジオ会士）
2005年4月サレジオ会から今治教会に派遣、2008年1月坂出教会、同年2月善通寺教会担当、2010年三本松教会、2011年教区会計担当、2011年司教総代理、2013年神学生養成担当、2014年桜町教会担当、2016年女性の視点で教会を考える会担当、2017年12月今治＋西条教会担当代行を経て本年復活祭を以て東京三河島教会（サレジオ会）へ異動

▼ロバート・ロビンソン師（オブレート会士）
2014年4月三本松教会着任、2015年4月香川東讃ブロック長、2016年4月外国人宣教司牧生涯養成担当を経てオブレート会福岡県古賀修道院へ移動。

▼セルワラージ・デーワネーサン師（オブレート会士）
2016年4月江ノ口・赤岡教会担当着任、同年高知刑務所教誨師を経て大阪府伊丹修道院へ

〈教区内着任〉

▼スティフェン・サワリムットゥ師（オブレート会士）
2018年4月1福岡県古賀修道院より鳴門・阿南教会担当着任

詩　海がある

お父さん　お母さん
あなた方の目を見ていると
あなた方の目の中に
海が見えて来る
ぼくの哀しみ
ぼくの苦しみ
みんな柔らげて
包んでくれる
あなた方の目の中には
やさしいマリアという海
がある
偉大なイエスという海が
ある

KI

TSC高松教区サポートセンター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告（含お米券）
（2月11日～3月30日分として）
18万8千190円
累計（2月10日現在）
1千740万9582円

聖ドミニコ宣教修道女会

私たちは、自分を創造しようとするこどもを
まなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園